

子どもから大人まで一緒に学ぶ「ふくし」

福祉学習ガイドブック



表紙デザインは市内の小・中学生を対象に実施した「福祉作品コンクール」の作品です



社会福祉法人石巻市社会福祉協議会

このガイドブックは、皆様からの会費と赤い羽根共同募金配分金の一部により作成しています。



目 次

1 作成にあたって	P1
2 福祉学習の考え方	P1
3 各項目のねらい／目的	P2
4 モデルプログラムの見方	P3
5 モデルプログラム	P4
【地域に関すること】	
① 子どもからお年寄りまでみんなで交流しよう	
② ピクトグラムを知ろう	
③ ボランティアって何だろう？	
④ 災害について考えてみよう	
【高齢に関すること】	
① 高齢者の暮らしを知ろう	
② 認知症を理解しよう	
【障害に関すること】	
① 障害者の日常生活を考えよう	
② バリアフリーとユニバーサルデザインを知ろう	
【子どもに関すること】	
① 幼児と一緒に遊ぼう	
【福祉に関すること】	
① 福祉って何だろう？	
② みんなにやさしいまちについて考えよう	
③ 福祉施設を訪問しよう	
6 市内で活動されている方々の想い	P16
7 福祉学習を進めるためのQ&A	P20
8 各種様式	P22

1 作成にあたって

石巻市社会福祉協議会では、「誰もが安心して暮らせる福祉のまちづくり」を基本理念に、地域福祉の推進に取り組んできました。そのような中で、石巻市内は東日本大震災により、これまで当たり前にあった地域コミュニティが崩壊し、私たちはあらためて人とのつながりや支え合いの重要性について考えさせられました。

震災後、学校では、これまでの福祉学習のほかに、地域を巻き込んだ防災や命の尊さを取り入れた学習、協働教育に積極的に取り組まれており、地域とつながる機会が拡充されてきております。

石巻市社会福祉協議会では、学校や地域の皆様と共に福祉学習を効果的に実践していくため、モデルプログラムを作成し、それぞれのプログラムの目的やポイント、効果を整理しガイドブックにまとめました。

学校や地域で福祉学習を実践していく上で、子どもたちの実状や地域の特性に合わせ、このガイドブックを有効に活用していただければ幸いです。

2 福祉学習の考え方

福祉学習というと、キャップハンディ体験や施設訪問、手話・点字体験といったプログラムが一般的ですが、体験だけに終わり十分な振り返りを行わなければ不便さや大変さだけを習得し、貧困的な福祉観を生み出してしまうという一面があります。

地域のみんなが幸せに暮らしていくために何をしたら良いのか。地域の課題に気付き、これを解決していくにはどのようにすれば良いのか。そのことを様々な人と共に考え、実践する力を育むことが福祉学習です。

福祉学習はすぐに成果が見えるものではないので、地道な取り組みを積み重ね、地域の中で福祉の理解者を少しずつ増やしていく「福祉の心の種まき活動」が大切です。

「福祉とはこういったもの」という一方的な教えではなく、子どもから大人まで多種多様な考えの下で共に考え、共に行動していくことを期待し、本冊子では「福祉教育」ではなく「福祉学習」という言葉を使用しています。

3 各項目のねらい／目的

地域に関すること

地域の様々な人と関わることを通して、コミュニケーションの力を高め、思いやりの心や相手を理解しようとする豊かな心を育みます。また、自分が住む地域に関心や興味を持つことで、誰もが安心して暮らせるまちづくりについて考えるきっかけとなるように学習します。

高齢に関すること

加齢に伴う身体変化と心理的变化、老いることはどんなことなのかを学習します。日常生活の中で困っている、又は大変そうな高齢者に出会った時に、手を差し伸べることができるように学習します。

障害に関すること

地域に暮らす障害のある方の普段の暮らしやバリアフリーについて学習します。障害の有無に限らず、私たちは一人ひとり違いがあることを伝え、適切なサポートができることを学び、学校生活や地域生活の中で助け合いの心が大切であることを学習します。

子どもに関すること

幼児との交流を通して思いやりの心を育んだり、接することで成長への自覚を持ち、自立心を育むことができます。また、中学生・高校生であれば、これまでの成長を振り返り、自身の生き方や進路を考えるきっかけにつながります。

福祉に関すること

福祉とは、「しあわせ」を意味する言葉です。自分の幸せ、みんなの幸せを実現するために、お互いに支え合い、助け合いながら幸せな暮らしを創っていくことを学習します。

4 モデルプログラムの見方

障害
①

テーマ 障害者の日常生活を考えよう

ねらい 障害のある方の暮らしを知り、地域で自分たちにできることを考える。

手法 車椅子を使用した下肢障害体験・白杖・視覚障害体験・点字学習・手話学習

その時間（授業）に学ぶべき目標を記載しています。

参加対象 小学3年

実施主体 福祉学習ボランティア 社会福祉協議会

5つの分野に分け、色分けしています。

具体的にどんなことを行おうかを記載しています。

実施主体と協力し合って実践を進めていく人や団体を記載しています。

プログラム（合計90分）

時間	内容
30分	○事前準備 ★体験学習の内容により、下記の物品を準備 ①車椅子・カラーコーン・マットなど ②アイマスク・白杖 ③点字盤
15分	○オリエンテーション
60分	★障害のある方の日常生活について ○体験学習（下記の中から選択し体験） ①車椅子を使用した下肢障害体験 ②アイマスクや白杖を使用した視覚障害体験（30分） ③点字を使用した点字学習（60分）
15分	○振り返り ★体験後の気付き、気持ちの変化の共有 ★具体的に自分たちのできることを考えてみる

準備物、必要なものを記載しています。

所要時間の目安を記載しています。

POINT

プログラムを進めていく上で、実践者にこれだけは押さえておいてほしい点、意識して取り組んでほしい点を記載しています。

プログラムが終わってから、今後期待される効果を記載しています。

学習効果

- ◎障害への理解を深めます。
- ◎家族や身近な人が困っていることに気付いた時に手を差し伸べられる、思いやりの心を育みます。

- 3 -

地域

①

テーマ

子どもからお年寄りまでみんなで交流しよう

ねらい

遊びを通して、子ども、保護者、地域住民が交わりつながる。

手法

スポーツ・昔の遊びを通じた交流／体験学習

参加対象

幼児～大人

協働実践者

老人クラブ・民生委員児童委員
社会福祉協議会

◇プログラム（合計90分）

時間	内容
60分	事前準備（用具の搬入・会場設営など）
20分	○オリエンテーション
60分	○体験学習 ★スポーツ（グラウンドゴルフ・ペタンク・ウォーキングなど） ★昔の遊び（丸太切り・けん玉・竹トンボ・コマまわしなど） ※用具の確認をしておきましょう。 ※時期・天候によって、実施できない場合のことも考えておきましょう。 実施場所：校庭又は体育館など
10分	○まとめ・振り返り
ポイント	
<ul style="list-style-type: none"> ●参加する大人の方々には、子どもたちと遊びを通して交流又は遊びを教えていただき、一緒に楽しく交流の時間を過ごしましょう。 ●企画の段階から、遊びの内容などについて子どもたちのアイデアも取り入れられると、子どもたちの主体性がより高まり、積極的な交流活動へとつながります。 ●子どもたちの間で流行っている遊びを参加した大人の方々に体験していただけると、相互理解が深まります。 ●社会福祉協議会では用具の貸し出しも行っていきます。 	



POINT



学習効果

◎子どもたちと地域の方々が顔見知りになることで、実施後も気軽に声を掛け合い挨拶ができるようになり、安心安全な地域づくりへとつながります。

テーマ **ピクトグラムを知ろう**

ねらい 命や暮らしを守る身近なマーク(ピクトグラム)を知る。

手法 地域の中でピクトグラムを探し、模造紙に書き込み発表する

参加対象 小学生～大人

協働実践者 町内会
福祉学習ボランティア
社会福祉協議会

※福祉学習ボランティアは、石巻市社会福祉協議会に登録している福祉学習を実践する時の協力ボランティアです。

◇プログラム (合計135分)

時間	内容
45分	○オリエンテーション ★福祉・身近なマーク(ピクトグラム)の説明 ※写真やイラストを用いて、ピクトグラムの種類・意味などを伝える。
45分	★体験学習の流れ・注意事項について ★活動のグループ作り ○体験学習 ※グループ活動 ★身近なピクトグラムをシートに記入する。 ※店舗/事業所などに訪問する時には、事前に許可をとり、下調べをしておきましょう。 ※時期・天候によって、実施できない場合のことも考えておきましょう。
45分	○まとめ・振り返り ★どのようなピクトグラムがあったかを振り返り、グループ毎にこんなマークがあったらいいなと思うものを考えてみる。 ★模造紙にまとめたものをグループ毎に発表。

事前学習と体験学習の2日間に分けて実施することも可能。



※ピクトグラム… その場にある物や、その場でとる行動を誰もが一目で理解できるように伝えるマークのこと。日本では1964年東京オリンピックにおいて開発されたのが始まりとされています。

ポイント



- 子どもたちと町内会の方や障害当事者の方が一緒に取り組んでいただくことで地域ぐるみの取り組みにつながります。
- 2020年に東京オリンピックが開催されることもあり、学習の機会を合わせることで、より子どもたちの意欲が高まります。

学習効果 ◎障害のある方や高齢者の目線に立って地域を周ることで、みんなが住みやすいまちについて考えるきっかけになります。

地域

③

テーマ

ボランティアって何だろう？

ねらい

ボランティア活動の基本的な考え方や活動内容について理解を深め、実践活動へのきっかけづくりとする。

手法

ボランティア活動をお話や映像を通して理解し、自分ができていることを考える

参加対象

小学生～大人

協働実践者

ボランティア実践者
社会福祉協議会

◇プログラム（合計90分）

時間	内容
10分	○オリエンテーション ★ボランティアの語源や歴史についての紹介
30分	○ボランティア実践者のお話や映像の上映 (DVDデッキやスクリーンの準備) ★市内で活動するボランティアにお越しいただき、活動しようと思ったきっかけや活動内容、ボランティア活動のやりがいなどのお話をいただく (又は映像にて紹介)
5分	○質問タイム ★分からなかったことや、気になったことを質問しみんなで共有する
45分	○グループワーク ★自分たちの生活する地域でどんなボランティア活動が必要か、自分たちができることは何かをグループで考える ○まとめ・振り返り
ポイント	
<ul style="list-style-type: none"> ●ボランティア実践者のお話から、グループワークで考える時のヒントを引き出しましょう。(自分たちでできることは？一緒に活動するとしたら？など) ●振り返りの時に、より良い地域づくりのためには一人ひとりの力が必要であること、「おたがいさま」で地域は成り立っていることを伝えましょう。 ●考えた活動を実践していく時は、社会福祉協議会でコーディネートのお手伝いをします。 	



POINT



学習効果

◎地域や社会、ボランティア活動への興味・関心を広げます。

テーマ 災害について考えてみよう

ねらい 災害時に起こりうる課題と対応について考える。

手法 災害対応カードゲーム(クロスロード)の活用

参加対象 小学生～大人

協働実践者 社会福祉協議会

◇プログラム (合計90分)



時間	内容
20分	○オリエンテーション ★災害についての説明や防災グッズの紹介 ★ゲームのルール説明 ★活動のグループ作り
50分	○ゲーム ※グループ活動 ① 1グループ5名～7名程度(奇数)で1つのテーブルを囲むように配置します。 ※グループ数に制限はありませんが、他グループの話し合いの声が気にならない程度に離れていることが望ましい。 ② グループの進行役を決め、ゲームスタート。 ③ 問題カードに対して、自分の考えをYESかNOで示しながら進めていく。 ※時間に応じて、設問数を設定。(基本的に6問～8問程度) ※設問は、年齢層や地域性等にあわせて事前相談の上でご用意します。
20分	○まとめ・振り返り ★各グループから感想や意見を発表し、参加者全員で共有する。



ポイント

- ゲームの勝ち負けを決めることが目的ではなく、災害対応を自らの問題として考えることと、自分とは異なる意見、価値観があることに気付くことを目的にしています。
※ゲームですので勝ち負けがありますが、あくまでも楽しく学習し、興味を持てる形式にしています。
- 正解、不正解はありませんので、参加者にありのままの気持ちを発表してもらい、少数意見にも耳を傾けることが大切です。そのためグループの進行役が大切な役割となります。

学習効果

- 災害を「我が事」として考えます。
- 日頃からの支え合い、助け合い、つながりの大切さを理解します。

高齢

①

テーマ

高齢者の暮らしを知ろう

ねらい

加齢に伴う身体と心の変化、老いることはどんなことなのかを学ぶ。

手法

高齢者疑似体験セットを使用した体験学習

参加対象

小学3年生～大人

協働実践者

社会福祉協議会

◇プログラム（合計90分）

時間	内容
10分	○オリエンテーション
20分	○高齢についての話 ★映像や写真、クイズなどで高齢に伴う身体や心の変化について伝え、関心が持てる場を作る。 ※電子黒板又はスクリーン準備
40分	○疑似体験 グループ分け ★疑似体験セット以外に日用品（電卓・財布・新聞紙など）を準備して普段の生活を体験する。 ①立ったり座ったりしよう ②歩いてみよう ③物をつかんでみよう ④新聞を見てみよう ⑤計算してみよう ⑥お支払いをしよう
20分	○まとめ・振り返り ★体験後の気付き、気持ちの変化の共有 ★自分たちにできることを具体的に考えてみる。



POINT



ポイント

- 怖い、大変だったなどのマイナス面のみが伝わらないように、体験の中でできたことについて振り返り、高齢者の得意なことや尊厳を守ることの大切さについても伝えましょう。
- 時間があれば、バリアフリー・ユニバーサルデザイン・地域の見守り活動など、高齢者の暮らしを支える社会的サポートについても伝えましょう。
- 高齢者施設の訪問や高齢者との交流事業などの事前学習として取り組むことをお勧めします。

学習効果

◎同居する家族や地域の高齢者に対する、思いやりの心を育みます。

テーマ 認知症を理解しよう

ねらい 認知症に対する正しい知識と理解を持つ。

手法 認知症サポーター養成講座の受講



参加対象 小学3年生～大人
(町内会・企業・団体・学校など)

協働実践者 地域包括支援センターなど
(キャラバンメイト)
社会福祉協議会

◇プログラム (合計60分～90分)



時間	内容
60分 ～90分	<p>○オリエンテーション</p> <p>○講座</p> <p>※講師は、キャラバンメイトといって、地域包括支援センターや介護事業所、行政などの職員で、認知症の相談、介護に携わり、講師になるための養成研修を修了している方になります。</p> <p>※テキストやDVDなどを用いた学習になります。</p> <p>※対象者によって、クイズや寸劇、グループワークなどを取り入れています。</p> <p>※受講後、認知症サポーターのシンボルとしてオレンジリングが授与されます。</p> <p>【主な学習内容】</p> <p>①認知症とはどういうものか</p> <p>②認知症の症状</p> <p>③認知症の治療・予防</p> <p>④認知症の方と接する時の心がまえ</p> <p>⑤認知症サポーターについて</p> <p>○まとめ・振り返り</p>

サポーターになったからといって、特別何かをしなければならないということはありません。認知症に対する正しい知識と理解を持ち、地域で認知症の人やその家族に対して自分のできる範囲で手助けをすることが期待されています。

POINT



ポイント

- 受講の証(オレンジリング)が配られることで、認知症の方を支えることへの意識づけとなります。
- 認知症の方に限らず、誰もが安心安全に暮らしていくためには地域の支え合いが大切であることを伝えましょう。

学習効果

- ◎認知症についての正しい知識や適切な関わり方が身につきます。
- ◎認知症の方や家族への温かい見守りの気持ちや、自分にできることから取り組もうという意識を育みます。

障害

①

テーマ

障害者の日常生活を考えよう

ねらい

障害のある方の暮らしを知り、地域で自分たちにできることを考える。

手法

車椅子を使用した下肢障害体験・白杖やアイマスクを使用した視覚障害体験・点字学習・手話学習

参加対象

小学3年生～大人

協働実践者

福祉学習ボランティア
社会福祉協議会

◇プログラム（合計90分）

時間	内容
30分	○事前準備 ★体験学習の内容により、下記の物品を準備 ①車椅子・カラーコーン・マットなど ②アイマスク・白杖 ③点字盤
15分	○オリエンテーション ★障害のある方の日常生活について（障害者のお話又は資料）
60分	○体験学習（下記の中から選択し体験する） ①車椅子を使用した下肢障害体験（30分） ②アイマスクや白杖を使用した視覚障害体験（30分） ③点字盤を使用した点字学習（60分） ④手話学習（60分）
15分	○まとめ・振り返り ★体験後の気付き、気持ちの変化の共有 ★具体的に自分たちのできることを考えてみる



POINT



ポイント

- 可能であれば障害者にサポートに入ってもらい、普段の暮らしの様子やどのような時に手助けが必要かなどを伝えていただくとより理解が深まります。
- まとめの時間には、障害者と会った時に活かしてほしいことや、障害の有無に限らず私たちは一人ひとり違うことを伝え、学校生活や地域生活の中でも助け合うことが大切であることを伝えましょう。
- 障害者施設の訪問や障害者との交流事業などの事前学習として取り組むことをお勧めします。

学習効果

- 障害への理解を深めます。
- 家族や身近な人が困っていることに気付いた時に手を差し伸べられる、思いやりの心を育みます。

障害②

テーマ

バリアフリーとユニバーサルデザインを知ろう

ねらい

学校や公共施設のバリアフリーとユニバーサルデザインを調べまとめることで、みんなが暮らしやすいまちについて考える。

手法

学校や公共施設などで調べ学習を行い、気づきをまとめる

参加対象

小学3年生～大人

協働実践者

福祉学習ボランティア
社会福祉協議会

◇プログラム（合計90分）



時間	内容
10分	○オリエンテーション ※車椅子・白杖準備
30分	○調べ学習 ★学校や公共施設を車椅子や白杖を使いながら周り、バリアになる場所やバリアフリー・ユニバーサルデザインを探し、どのような所にあるかチェックしていく (例：多目的トイレ・エレベーター・自動販売機・電化製品など) ※公共施設を訪問する時は事前に許可をとり、下調べをしておきましょう。
30分	○マップ作り ★不便な場所と工夫されている場所を記入する
20分	○まとめ・振り返り ★作ったマップの発表 ★体験後の気づき、気持ちの変化の共有

調べ学習とマップ作りの2日間に分けて実施することも可能。

※バリアフリー… 障害者や高齢者の生活上のバリア（物理的・心理的）を取り除くこと

※ユニバーサルデザイン… 多くの人を使いやすいデザインのこと

ポイント

POINT

- 可能であれば障害者と一緒に取り組むことで、より気づきが広がります。
- バリアフリーやユニバーサルデザインについて事前に学習しておく、より学習効果が高まります。

学習効果

- 障害者や高齢者の目線に立って地域を周ることで、みんなが住みやすいまちについて考えるきっかけとなります。
- 普段と違う目線で自分たちが住む地域を歩いてみることで、地域や福祉への興味・関心が高まります。

子ども
①

テーマ

幼児と一緒に遊ぼう

ねらい

遊びを通して幼児とふれあい、協調性や思いやりの心を育む。

手法

自分たちで手作りのおもちゃ(ゲーム)を制作し、幼児と遊ぶ。

参加対象

小学生～高校生

協働実践者

幼稚園・保育園・保育所
子育てサークル
社会福祉協議会

◇プログラム(合計240分)

時間	内容
150分 (1日目)	○交流に向けて ★グループ毎におもちゃ作りの計画を立てる(60分) ★おもちゃの制作(60分) ★役割分担・幼児との関わり・注意事項の確認(30分)
20分 (2日目)	○オリエンテーション ★活動のグループ作り ★おもちゃの遊び方説明
60分	○遊び・交流 ※グループ活動 (例) すごろく・魚釣りゲーム・かるた・輪投げ・紙しばい
10分	○まとめ・振り返り ★感想や意見を発表し、参加者全員で共有



ポイント

POINT



- 受入側と注意点について事前に確認しておきましょう。
- 風邪やインフルエンザ、衛生面などに注意を図りましょう。
- 子どもたちへの声かけやスキンシップを大切に、一緒に楽しむ気持ちで取り組みましょう。
- 思春期を迎えた中高生にとって、保育者へのインタビューを実施できると、これまでの成長や今後の生き方を考えるきっかけとなり適時性があります。

学習効果

- ◎仲間とのグループ活動や幼児とのふれあいを通して、協調性や思いやりの心を育みます。
- ◎創造の楽しさや達成感を育みます。

福祉 ①

テーマ

福祉って何だろう？

ねらい

福祉への理解を深める。

手法

写真やクイズを用いた福祉の入門学習

参加対象

小学3年生～大人

協働実践者

社会福祉協議会

◇プログラム（合計45分）

時間	内容
5分	○オリエンテーション
30分	○お話 ①福祉について（「福祉」という言葉の意味を考える） ②身近な福祉について（バリアフリー・ユニバーサルデザインの紹介など） ③支え合いや人とのつながりの大切さについて
10分	○まとめ・振り返り



ポイント

- 他のプログラムを行う前の入門学習として実施することで、今後の学習時は福祉をより身近なものに感じて学習を進めることができます。
- 家庭にある日用品（シャンプー、リモコン）などのユニバーサルデザインについて知ること、学びをより身近に感じ、日常生活の福祉の気付きにつながります。
- 各々で事前に福祉について調べておくことより理解が深まります。その時は、授業の最初に調べたことを思い出す時間を作りましょう。



学習効果

- ◎自分だけでなく周りの人を大切に思う福祉の心を育みます。
- ◎福祉への興味・関心を高めます。

福祉

②

テーマ

みんなにやさしいまちについて考えよう

ねらい

自分たちの暮らすまちのやさしさを見つけ、みんなにやさしいまちについて考える。

手法

地域の福祉資源を見つける学習

参加対象

小学3年生～中学生

協働実践者

福祉施設
福祉学習ボランティア
社会福祉協議会

◇プログラム(合計180分)

時間	内容
45分 (1日目)	○事前学習 グループで「みんなにやさしいまち」をイメージし、調べたいことを決めて学習の計画をたてる
60分 (2日目)	○やさしいまち探し 例：Aグループ（福祉施設を訪問して利用者と交流する） Bグループ（まちの中の点字を探す（点字ブロックなど）） Cグループ（学校や公共施設など建物の中の福祉を探す） Dグループ（福祉の仕事やボランティア活動をしている人へのインタビュー）
30分	○まとめ・振り返り 自分たちが暮らすまちのやさしさについて、調べたことをまとめる
45分 (3日目)	○発表会 （お世話になった人を招待し、調べたことを発表しながら全体で共有する）



ポイント

- 事前学習の導入で、自分たちの暮らす地域にはどのような人が暮らしているのかを考え、「みんなにやさしいまち」をイメージしておきましょう。
- 地域や福祉施設の方々との交流を通じた学びを大切にしましょう。訪問先やインタビュー先については、社会福祉協議会でコーディネートのお手伝いをします。
- 事前学習で考えた「みんなにやさしいまち」のイメージについて、学習後に変化があったかどうかを考え、学んだことの振り返りを行きましょう。

POINT



学習効果

- ◎地域にある福祉資源について学ぶことができます。
- ◎普段と違う目線で自分たちが住む地域を見つめることで、地域や福祉への興味・関心を高めます。

テーマ 福祉施設を訪問しよう

ねらい 福祉施設の役割や利用する高齢者・障害者の生活を利用者との交流の中から学ぶ。

手法 福祉施設の見学と利用者との交流

参加対象 小学生～大学生

協働実践者 福祉施設
社会福祉協議会

◇プログラム(合計150分)



時間	内容
45分 (1日目)	○訪問に向けて (訪問する施設についての事前学習・交流内容の練習など)
60分 (2日目)	○施設訪問(福祉施設のことを知ろう) ①オリエンテーション(施設職員から施設の概要や注意事項の説明) ②施設見学(福祉施設の役割や利用者の生活の様子を知る) ○利用者との交流(歌やゲームなどを通じた交流、利用者との共同作業など)
45分 (3日目)	○まとめ・振り返り (施設の役割や利用者の生活について学んだことをまとめ、交流を通しての感想を話し合う)

ポイント

- 事前学習で、訪問する施設のパフレットや手作り品・販売品などを見たりして、訪問の時のイメージづくりをしておきましょう。
- 施設を訪問する時の注意事項やスケジュール、交流内容など、事前に確認しておきましょう。
- 施設職員に仕事内容ややりがいなどを聞く機会を設けられると、キャリア学習として福祉の仕事への理解も深めることができます。
- 可能であれば、体験後も施設が開催するイベントに訪れたり、学校行事に利用者を招待するなどして、交流を続けていきましょう。

POINT



学習効果
◎地域にある福祉資源について学ぶことができます。
◎地域には様々な人が暮らしていることの理解が深まります。

6 市内で活動されている方々の想い

ガイドブック作成にあたり、市内で活動されている方々から「ふくし」の想いを執筆していただきました。子どもたちがこんな風に成長してほしい、地域がこんな風になってほしい、そんな日頃の活動で大切にしている想いがこのコメントに表れています。

福祉のお仕事をされている方、地域で活動されている方、障害をお持ちの方、子どもたちなど、それぞれ活動の内容は違いますが、執筆していただいた方々に共通していることは、地域の中でみんなが、安心安全に暮らしていくことを願って行動していることです。

思いやりの心でいっぱい为学校や地域を作る「福祉の種まき活動」があちらこちらで行われています。

～自分たちにできることから始めよう～



高橋 千絵 さん
石巻市立大街道小学校
【教諭】

大街道小学校の5年生は、総合的な学習の時間に「私たちにできる福祉について」をテーマに、いろいろな学習を進めてきました。子どもたちが「福祉」を知るために、社会福祉協議会の方々の協力をいただき、高齢者疑似体験や点字体験などのキャップハンディ体験、目が不自由な方の講話を聞くなどの活動を行いました。また、その活動を生かし、地域の福祉施設を訪問し、利用者の方と交流をすることで、自分たちにできる福祉活動を見つけることができました。福祉に関する体験活動を通して、子どもたちが地域の方やお年寄り、困っている人へ自信をもって手を差し伸べられる人に育ってほしいと願います。

～身近にある点字を知ろう～



山本 美智子 さん
石巻点字勉強会
【ボランティア活動者】

私たちは地域の情報を点字に訳し、目の不自由な方に必要な情報を届ける活動をしています。パソコンで情報を点訳し機械で打ち出しますが、昔は1つつ点字盤を使って作っていました。また、私たちは点字の仕組みや点訳の体験として、多くの学校にお邪魔してきました。点字には特殊な決まりがあり、「石巻へ」ではなく「石巻え」と打ったり、「がっこう」ではなく「がっこー」と言った難しさもありますが、自分たちの身の回りにもあるたくさんの点字に、興味や関心を持ってもらうきっかけになって欲しいと思っています。ある学校の児童は「点字盤を持ち帰って自宅で練習したい」など、嬉しい反応もあつたりと点字に興味を持つ仲間がたくさんできることが私たちのやりがいにもつながっています。

～垣根のない地域を目指して～



若山 崇 さん
盲導犬 トラヴィスくん
一步を楽しむ石巻
【障害当事者】

視覚障害者や目の不自由な方に対しての自立支援を目的とした活動を行っています。また目の不自由な方への相互理解を深めるため、講習会やイベントを開いています。目の不自由な方への接し方・話し方を習得していただく事で、相互の垣根のない地域になって欲しいと思います。石巻管内には400名以上の視覚障害者や目の不自由な方がいて、中には生活に自信を無くし、ふさぎこんでいる方もいます。そのため、歩行体験講習会などのイベントを石巻管内で行い、一人でもこの会を知っていただき、本来の自信を取り戻し地域への参加や就労につなげ、一歩ずつ楽しみながら生活することを願っています。

～妊娠・出産・子育てをみんなでハッピーにしよう！～



荒木 裕美 さん
NPO法人
ベビースマイル石巻
【子育て支援団体】

妊婦～未就園児親子の子育て支援活動を行っています。当事者のネットワークづくりと地域をつなぐことで、子ども・子育ての孤立を防ぎ、地域みんなで子どもを育てる環境づくりを行っています。居場所やネットワークの拠点「マタニティ・子育てひろばスマイル」や子育てのよろず相談窓口「子育て世代包括支援センター いっしょ issyo」の運営などを通して、子どもが育つ多様な環境、子どもの多様な育ちに接しています。子どもたちには自分らしく！楽しむ力を伸ばして、いきいきと成長して欲しい！そして地域の資源を上手に使って力にかえていって欲しいと思っています。

～地域の輪で子どもたちを育てる～



遠藤 良吉 さん
牡鹿支部老人クラブ連合会
【老人クラブ】

牡鹿地区の老人クラブと遺族会の会長を掛け持ちしながら、地域のみんなが笑顔で集える場を作るため、寄磯・前網お茶っこ会を立ち上げて活発に活動しています。牡鹿半島は太平洋に囲まれた金華山を目の前に、少し不便な点はあるものの、海の幸に恵まれて暮らしてきました。あの東日本大震災で地域や子どもたちは大変な経験をしましたが、地域の団結力が強く、なんとか元の生活に近くなったように思われます。子どもたちには親切な気持ちを忘れず、先生や親の指導を守り、いじめのない学校生活を送り、将来に向かってたくさん学んで欲しいです。また、地域の伝承を守り、お祭りや獅子舞、大黒舞などを絶やさないように、地域みんなで協力していくことを願っています。

～日常生活の中で考え行動する石巻っ子に～



白鳥 達也 さん
社会福祉法人白珠会
(元在宅障がい者多機能支
援施設ラボラーレ施設長)
【福祉施設職員】

平成28年度まで石巻市で障害福祉の仕事をしていました。現在は他市で高齢福祉の仕事をしています。福祉学習は知識を習得するだけでなく「そこに住む人を知ること、福祉を必要としている方に接すること」が大事と考えます。当事者に会い、接し、話し、生活や生き方を知ること、障害や高齢の状況だけをみるのではなくその人の生き方や日々の生活を学ぶこと、考えることで自分と違う価値観に触れ、結果、地域社会に目を向けたりすることができます。それにより、例えば「障害のある人は特別な存在ではなく特別な支援を必要とする人」、「自分たちにできる事ってなんだろう?」と、思いやりの心について考えるきっかけとなり、そして、その行った事は自分自身が存在することについての価値を見い出します。一方的に教える「福祉とはこういうもの」ということから、「日々の生活の中で行動しよう」と考える石巻っ子、さらに子どもが成長し市全体としてそういう市民が増えることで石巻市がより良い地域となることを願っています。

～地域の小学6年生との交流を通して～



齋藤 扶美子 さん
お茶っこ会
【サロン活動実践者】

「おはようございます」朝9時半、いつもとは違う元気な声が聞えるとサロンにはとびっきりの笑顔が広がりました。地域の6年生が担任の先生と会場に来てくれたのです。12月の交流会は6年生が企画したお茶っこ会です。歌・手品・クイズ・手遊びなど、楽しい時間はあっという間です。「散歩で会った時は挨拶してくれて嬉しかったよ」と、おばあちゃん。「私たちの手作りクッキー、たくさん食べてね」と子どもたち。私たちボランティアや子どもたちは、人生の大先輩であるお年寄りの方から学ぶことはたくさんあります。また、子どもたちの一声は元気をあたえる一番の薬にもなります。互いの存在を認め合い、優しい一声でこの地域が丸ごと幸福になれますように。

～安心してその人らしい生活が送れる地域に～



高橋 香奈 さん
石巻市湊地域包括
支援センター
【社会福祉士】

私の仕事は、介護・保健・福祉の専門職がチームとなり、高齢者及びその家族からの相談の受付や、高齢者の見守り、心身の状態にあわせた支援を行う高齢者の総合的な相談・サービスの拠点です。介護予防教室や、認知症サポーター養成講座を開催し、高齢者にとって住みよい環境づくりにも取り組んでいます。誰もが周囲の人や環境に目を向け、課題があればそれを共有し解決に向けて協力しあうことができる地域、そして、高齢者が心身ともに健康で自分の思いが表現でき、社会参加が続けられるような地域。つまり、高齢者だけでなく誰もが幸せに暮らせる地域づくりを目指すこと、それが私たちの役割だと考えています。

～声を掛け合いやさしさあふれる地域に～



阿部 莉莉 さん (左)
柳橋 凜佳 さん (右)
石巻市立東浜小学校
【児童】

私たちの東浜小学校は、全校児童15名の学校です。地域とのつながりが強く、今年度は秋にふれあい交流会を計画し、私たちの祖父母や地域の方々と一緒にわりばし鉄砲や巨大カルタ、ゲームなどで交流しました。喜んでもらって、とてもうれしかったです。今度は私たちが地区の集会所などに行き、昔の話を聞いたり、肩たたきをしたりしてあげたいと思いました。最近ではテレビで高齢化社会の話題が出ていますが、この東浜地区がお年寄りや体の不自由な方にとって、誰でも気軽に声を掛け合えるやさしさあふれる地区であってほしいです。また、将来はユニバーサル的な公園や映画館のような施設ができて子どもやお年寄りが普通に集まり、会話を楽しむような地区であってほしいと思います。

～地域をフィールドとした学びを～



寶 鈴子 さん
放課後こどもクラブ
Bremen
【地域活動実践者】

4人の子どもを育てながら、小学校教員として勤務しました。2011年に早期退職し、放課後こどもクラブBremenを立ち上げ、現在は延べ1000人の子どもの放課後の見守り・学習支援を行っています。

これからの時代は、子どもたちが学校だけでなく地域をフィールドに学び、地域との結びつきを形成していく事が重要であると考えています。福祉学習は、社協の持っている“地域で人と人とを結びつける力”が重要な役割を果たしています。様々な役割の方たちと連携しながら、社協ならではの福祉学習が展開されることを期待しています。そして、地域での体験を通した福祉的な学びの中で、子どもたちが持っている力を伸び伸びと発揮できるようになれば、石巻全体が若い力に溢れる街になるものと考えています。



7 福祉学習を進めるためのQ & A



Q1 福祉学習を実施したい時はどうすればいいの？

A1 まずは、石巻市社会福祉協議会（本所・支所）に気軽にご相談ください。

【事前相談】

- 学習の目的や内容について確認し、協力していただきたい人、講師や団体、施設、実施に必要な物品などの確認を行います。



講師・施設の紹介 など

一緒に取り組む姿勢で臨みましょう。

【申込み・打ち合わせ】

- 体験学習の事前の打ち合わせを行います。日時やタイムスケジュール、人数、予算、服装、準備物など詳細について確認します。
- 安全面や留意点について確認を行います。



実施

感想文を添えるなどして、学んだことや感謝の気持ちを伝えましょう。



講師・施設などへのお礼

【評価】

- 体験だけで終わることのないよう、「児童・生徒が活動を通して何を感じ、何を学んだのか」を感想文や話し合いを通して把握し、活動の振り返りや評価を行うことが大切です。

Q2 他のところで実施している福祉学習を参考にしたいのですが、研修などありませんか？

A2 石巻市社会福祉協議会主催の「福祉教育推進研修会」を年1回開催しています。学校や地域で実践された活動発表や、講師を招いての研修を行っています。学校の先生方やPTA、当事者、主任児童委員、協力ボランティアなど多くの関係者が一同に会した研修会ですので、是非参加してみてください。また、他機関の研修案内や情報も本会に届いておりますので随時ご相談ください。

Q3 講師や協力者に謝礼は必要ですか？

A3 準備・調整・社協職員の派遣については無料です。ただし、講師・協力者は実施場所まで自家用車や公共交通機関を利用して来ていますので、実費負担分などの謝礼をいただくことがあります。
※実施当日、講師や協力者に直接お渡しください。
※小・中学校で実施される場合は福祉教育推進事業助成金の活用も可能です。
※講師謝礼の有無については、事前の打ち合わせの時に確認しましょう。

Q4 体験学習に必要な用具の貸し出しは行っていますか？

A4 無料で貸し出しを行っています。事前の申込みが必要になりますので、物品借用願書に記入の上、石巻市社会福祉協議会本所及び各支所に提出してください。

（ 車椅子・白杖・アイマスク・高齢者疑似体験セット・点字盤
防災カード・昔の遊び用具・ニュースポーツ用具 など ）



Q5 体験学習を親子で取り組む効果はありますか？

A5 学習の後、普段の生活の中でこれまであまり意識しなかった福祉の設備やサービスに気付き、家庭内で福祉について話すきっかけとなり学習の幅が広がっていきます。是非、親子で体験していただくことをお勧めします。

8 各種様式

年 月 日

福祉学習シート

○名前 年 組 _____

○どんなことをするの？ ※学習の前に書きましょう

--

○学習の目標は何？ ※学習の前に書きましょう

--

○わかったこと

○わからなかったこと

--	--

○学習の目標は達成できましたか？

・完璧！ ・ほとんどできた ・まあまあできた
・少しかけた ・ほとんどできなかった ・全然だめ

100点満点だと・・・

--	--	--

点

○感想

--

○学習を終えて、これからあなたができることは何か見つかりましたか？

--

社会福祉法人石巻市社会福祉協議会

※福祉学習を行う時の記録に使います

物 品 借 用 願

年 月 日

石巻市社会福祉協議会長 殿

団体名 _____

代表者 _____

連絡先 _____

下記の物品を借用いたしたく申請いたします。

記

借用物品	
期 間	年 月 日 () ～ 年 月 日 ()
使用目的	
使用場所	
備 考	

※石巻市社会福祉協議会記入欄

事務局長	次 長	課 長 支所長	補 佐	G・L	係	担 当

石巻市社会福祉協議会 出前講座申込書

年 月 日

石巻市社会福祉協議会長 殿

団体名： _____

代表者： _____

連絡先： _____

次のとおり、石巻市社会福祉協議会出前講座を申し込みます。

内 容		
実施希望日	第1希望	年 月 日 (曜日)
		時 分 ~ 時 分
	第2希望	年 月 日 (曜日)
		時 分 ~ 時 分
場 所		
予定者数	約 名	
備 考	特に希望される事項等ございましたらご記入下さい。	

※石巻市社会福祉協議会記入欄

受 付 年 月 日	年 月 日					
出 席 職 員						
協 力 者						
事務局長	次 長	課 長 支所長	補 佐	G・L	係	担 当

石巻市社会福祉協議会 出前講座メニュー

No.	メニュー	内 容
1	社会福祉協議会について (社協の各種事業、会費等)	福祉の街づくりを推進する社協の具体的な活動と役割についてご説明します。(社協の事業内容、社協会費の使われ方)
2	地域福祉活動計画について	石巻市社協が進める地域福祉活動計画についてご説明します。
3	共同募金について	共同募金の仕組みとその役割についてご説明します。
4	福祉学習について	障害をお持ちの方、高齢の方等の立場に立って「気づき」「思いやり」を学校や地域の中で育む体験学習です。その他、点字・ユニバーサルデザイン等、福祉学習に関わることをご説明します。
5	地域サロン・子育てサークルについて	地域サロン・子育てサークルの活動の立ち上げや活動事例をご説明するとともに、助成事業についてもご紹介します。
6	地域福祉コーディネーター・生活支援コーディネーターについて	地域課題などを住民の方と考え、住民の皆様が主体的に課題に取り組めるようお手伝いします。また生活支援に関するサービスをご紹介します。
7	ボランティアセンターについて	ボランティアセンターの機能についてご説明するとともに、ボランティア活動する時の心構えやボランティアをお願いする時の方法についてご説明します。
8	災害ボランティアについて	災害ボランティアの概要について学び、災害時に自分たちのできることを考えます。また、児童・生徒向けに防災、減災教育についてもご説明します。
9	在宅での介護について	在宅での介護や介護保険サービスの利用方法等についてご説明します。
10	介護技術について	介護技術を学び、身体が不自由になったり、障害があっても住み慣れた地域で過ごせる実技をご説明します。
11	高齢者の食事について	高齢者向けの簡単な食事の内容について、日常に活用できるようご説明します。
12	障害者福祉について	地域に様々な方が暮らしている中で、障害を持つ方々と共生することの大切さについてご説明します。
13	日常生活自立支援事業(まもりーぶ)について	判断能力に不安のある方への金銭管理や福祉サービスの利用などの支援を行う、日常生活自立支援事業についてご説明します。

石巻市社会福祉協議会 問い合わせ先

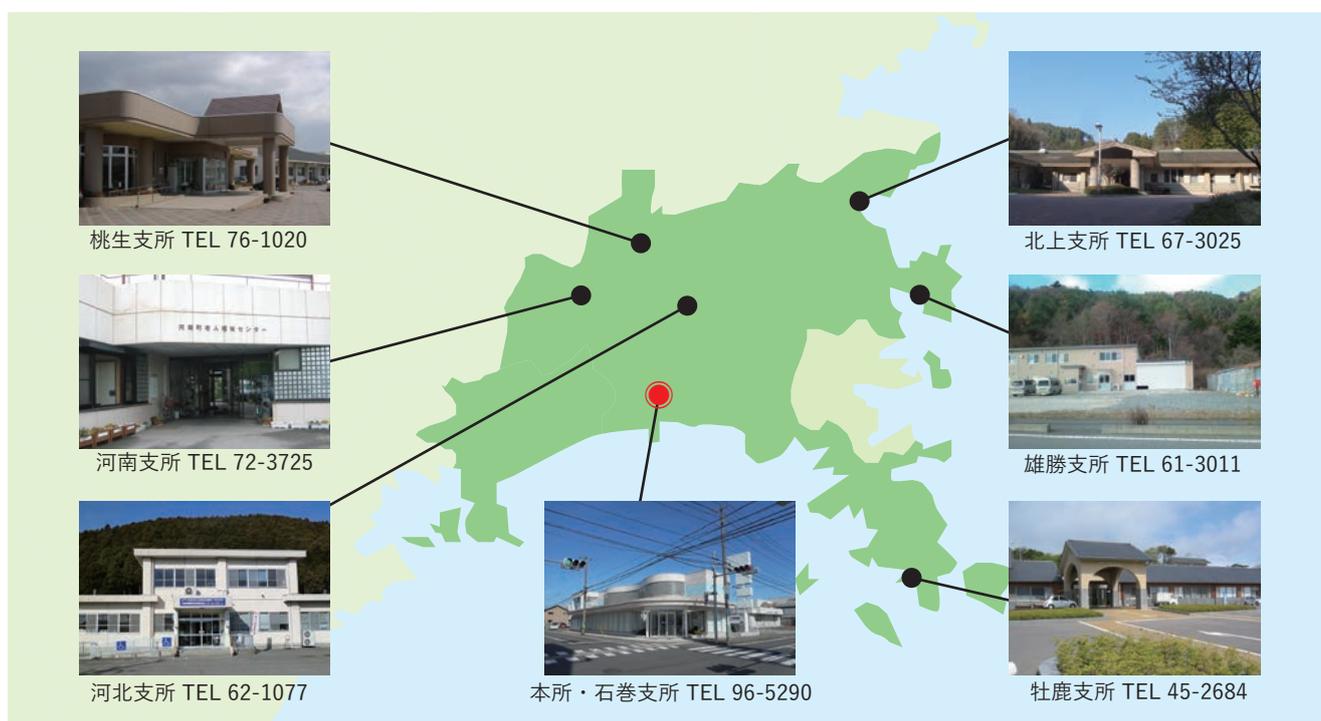
部署名	住 所	電話番号
本 所 石巻支所	〒986-0825 石巻市穀町15-2	電 話 0225-96-5290 FAX 0225-96-5223
河北支所	〒986-0132 石巻市小船越字山畑417-54	電 話 0225-62-1077 FAX 0225-62-1079
雄勝支所	〒986-1333 石巻市雄勝町雄勝字下雄勝12-42	電 話 0225-61-3011 FAX 0225-61-3022
河南支所	〒987-1101 石巻市前谷地字黒沢前35 (石巻市河南老人福祉センター内)	電 話 0225-72-3725 FAX 0225-72-2408
桃生支所	〒986-0313 石巻市桃生町中津山字八木157-1 (石巻市桃生地域福祉センター内)	電 話 0225-76-1020 FAX 0225-79-1018
北上支所	〒986-0202 石巻市北上町橋浦字大須215	電 話 0225-67-3025 FAX 0225-67-2031
牡鹿支所	〒986-2523 石巻市鮎川浜清崎山7 (石巻市牡鹿保健福祉センター清優館内)	電 話 0225-45-2684 FAX 0225-45-2785

作成メンバー

NO	氏 名	所 属・職 名
1	峯 田 貴 博	地域福祉課 主査
2	今 野 啓 夫	河北支所 主査
3	高 橋 佑 矢	雄勝支所 主事
4	佐々木 節 子	河南支所 主任主事
5	佐々木 ゆ み	桃生支所 主任主事
6	三 浦 紀 子	北上支所 主任主事
7	小 山 文 義	牡鹿支所 主幹
8	荻 生 奈 苗	地域福祉コーディネーター (石巻・門脇地区担当)
9	高 橋 泰	地域福祉コーディネーター (湊地区担当)
10	【作成協力】 一般社団法人コミュニティ・4・チルドレン宮城事務局 福祉・防災学習コーディネーター 菅原 清香	

社会福祉協議会について

社会福祉協議会は、社会福祉活動を推進することを目的とした営利を目的としない民間組織です。昭和26年（1951年）に制定された社会福祉事業法（現在の「社会福祉法」）に基づき、設置されています。それぞれの都道府県、市区町村で、地域に暮らす皆様のほか、民生委員児童委員、社会福祉施設・社会福祉法人等の社会福祉関係者、保健・医療・教育など関係機関の参加・協力のもと、地域の人々が住み慣れたまちで安心して生活することのできる「福祉のまちづくり」の実現をめざした様々な活動を行っています。例えば、ボランティアや市民活動の支援、各種福祉サービスや相談活動、共同募金運動への協力など、全国的な取り組みから地域の特性に応じた活動まで、様々な場面で地域の福祉増進に取り組んでいます。



福 祉 学 習 ガ イ ド ブ ッ ク

発 行 日 : 平成 3 0 年 3 月 3 1 日

編 集 ・ 発 行 : 社会福祉法人石巻市社会福祉協議会

住 所 : 〒 9 8 6 - 0 8 2 5

宮城県石巻市穀町 1 5 - 2